

はじめに

2007年10月末より、これまでの麻酔医の体制（月曜日：済生会熊本病院麻酔科応援、水曜日：非常勤麻酔医）から一変し、荒川が当院の麻酔を担当することとなった。これまでも数回、金曜日の当院勤務時に麻酔業務を担当する機会があったが、専従となると、病棟⇄手術室の連絡体制や運営、術前・術後管理にも関わることとなった。当初は戸惑いも多かったが、周りのスタッフにも恵まれ、現在は大きな問題なく業務を遂行できている。とはいえ、まだまだ改善すべき点も散見され、より一層のレベルアップが必要と思っている。

①2007年度総括

麻酔件数は2006年度と比較し269件（全麻：112、腰麻：113、局麻：44）⇒ 374件（全麻：157、腰麻：142、局麻：75）と著増した。

これは、整形外科手術の増加によるもので、麻酔側の要素によるものではない。しかしながら、現スタッフの体制（麻酔医1名《内科兼務》、手術室看護師5名《外来業務兼務》、看護助手1名）でこの増加に対応できたことは、評価に値するものであると考えている。

2007年度後半は、麻酔件数は前半と比べ変化無いが、全身麻酔の占める割合が増加した。

（4～9月：計187件中全麻67件 ⇒ 10～3月：計187件中90件）

これは、麻酔医が専従することによって、全身麻酔を施行しやすい環境が出来た結果と思われる。症例によっては、腰椎麻酔より全身麻酔の方が安全な場合もあり、麻酔医がいることで、外科系の医師が、麻酔法の選択に神経を使わなくて済むようになったのではなかろうか。

麻酔別手術件数比較

	2006	2007
全 麻	112	157
腰 麻	113	142
局 麻	44	75

科別手術件数比較

	2006	2007
外 科	168	144
泌尿器科	95	75
循環器科	6	11
整形外科	1	145

②問題点と今後の課題・目標

一番の問題は、医師数の減少による、手術体制のマンパワー不足である。2007年度は外科医師が3名在籍しており、緊急手術の際に荒川が救急外来担当でも、外科から交代要員を補充できた。しかしながら、外科医が2名となり、また内科医師も1名減少したため、緊急手術対象の患者について、昨年のようにスムーズな対応は困難になると思われる。加えて、救急外来の担当回数も増え、予定手術枠に対する制約ができた。

看護師についても同様。看護師数はそのまま、手術件数の増加に対して対応し、手術が続いた際には、救急外来兼務であるため対応できる看護師が不足し、結果、病棟に応援を依頼していたのが現状である。これからの手術件数の動向は不明であるが、増員の必要性はかなり高いと思われる。

今後の課題・目標は、周術期麻酔において超音波ガイド下神経ブロックなどの技術講習へ参加し、神経ブロックによる低侵襲な手術・麻酔を当院でも行えるよう、更なる努力をしていく。また、現在の周術期麻酔のみで無く、ペインクリニックなどの麻酔関連領域の知識・技術の習得を考慮している。ターミナルケア領域でも少しでも貢献できればと考える。

最後に、次年度は、麻酔科標榜ができる見込みである。これにより麻酔管理料が収益として得られることになるので、さらに貢献できるよう日々の業務に努めていく所存である。